

潜在危険性

健康

- ・ 毒性：蒸気、粉塵又は物質の吸入、摂取、接触（皮膚、眼）により、重傷、炎症、死に至るおそれがある。
- ・ 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 水との反応により大量の熱を発生し、空気中のヒュームの濃度を増大させるおそれがある。
- ・ 溶融物に接触すると、皮膚や眼にひどい炎症を起すおそれがある。
- ・ 消火水や希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。

火災・爆発

- ・ 燃えるおそれのあるものもあるが、容易に発火しない。
- ・ 可燃物（木、紙、油、布等）を発火させるおそれがある。
- ・ 水と反応して（あるものは激しく）、腐食性及び／又は毒性のガスを発生する。
- ・ 引火性や毒性のガスが密閉された場所（地下、タンク、底開き車／タンク車等）に蓄積するおそれがある。
- ・ 金属と接触すると、引火性の水素ガスを発生するおそれがある。
- ・ 加熱されたり、水が混入すると、容器が爆発するおそれがある。
- ・ 溶融した状態で輸送されることがある。

公共の安全

- ・ **まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。**
- ・ 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外は近づけない。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 密閉された場所を換気する。

保護具

- ・ 空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- ・ 製造者により特に推奨された化学用保護衣を着用する（耐熱性がないおそれがある）。
- ・ 防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎず、漏洩時に効果はない。

避難

大量漏洩時

- ・ 風下に適切な避難距離をとる。

火災時

- ・ タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

- ・ 物質が燃えていないとき；物質に水をかけてはいけぬ。

小火災

- ・ 粉末消火剤あるいは二酸化炭素を使用する。
- ・ 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。

大火災

- ・ 火災の場所に大量に散水し、水噴霧によって蒸気濃度を低下させる。水が十分に供給されないときは蒸気濃度を低下させるだけにする。

タンクあるいは車／トレーラーの積荷火災

- ・ 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・ 容器内に水を入れてはいけぬ。
- ・ 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
- ・ 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。

漏洩時

- ・ 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性が高い不透性の保護衣を着用する。
- ・ 適切な保護衣を着用していないときは、破損した容器や漏洩物に触れてはいけぬ。
- ・ 危険でなければ漏れを止める。
- ・ 散水して蒸気の発生をおさえる；漏洩区域あるいは容器内に直接水を注いではいけぬ。
- ・ 木、紙、油等の可燃物は漏洩物から隔離する。

少量のもれ

- ・ 乾燥した土、乾燥砂あるいは不燃材料で覆い、さらにプラスチックシートで飛散を防止し、雨にぬれないようにする。
- ・ 漏洩物は清浄な帯電防止器具を用いて集め、プラスチック容器に入れてゆるく覆いをし、後で廃棄する。
- ・ 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

応急手当

- ・ 被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 救急車を呼ぶ。
- ・ 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・ 被災者が（有害）物質を飲み込んだり、吸入したときは口対口法を用いてはいけぬ；逆流防止のバルブがついたポケットマスクや他の適当な医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。
- ・ 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- ・ 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・ 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15 [20] 分間洗浄する。
- ・ 皮膚への接触を最小限とするため、付着物を拡散させないようにする。
- ・ 皮膚に付着した固型溶融物を取り除くには医師の助けが必要である。
- ・ 被災者を温め、安静にする。
- ・ 物質への暴露（吸入、吸飲、皮膚接触）により遅発性の影響を生じるおそれがある。
- ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。